

今帰仁村地先のシラヒゲウニ漁獲サイズ							
[要約] 沖縄県内でシラヒゲウニの漁獲量が最も多い今帰仁村地先海域での、漁獲サイズを口器中間骨長から推定した。漁獲サイズは殻径 70~85mm で、2 歳ウニが主体であった。							
水産試験場増殖室				連絡先		098-994-3593	
部会名	水産	専門	栽培漁業	対象	シラヒゲウニ	分類	研究

[背景・ねらい]

沖縄県のシラヒゲウニ漁獲量は 1971~1975 年には 1,200 トン（殻付き重量）以上あったが、それ以降、減少し 1997~1999 年は 100 トン以下となった。減少した資源を回復させるには、現在実施中の人工種苗の放流を継続するとともに、今後は資源管理を導入していく必要がある。そのための情報として、シラヒゲウニの漁獲サイズを調べた。

[成果の内容・特徴]

シラヒゲウニは生殖巣で流通するので、直接漁獲サイズを測定することができない。そこで、殻を割った後に残るウニの口器を漁業者から回収し、その中間骨長を測定することにより間接的に漁獲サイズを推定した。

- ① 1999~2000 年に殻径 41~97mm のシラヒゲウニ 286 個を今帰仁村地先海域から採集し、殻径と口器中間骨長の関係を調べた。両者の間には、下記の一次式で表される相関関係がみられた（図 1）。

$$TD = 10.03 RL + 10.91 \quad (r^2 = 0.8229) \quad TD: \text{殻径 (mm)}, RL: \text{中間骨長 (mm)}$$

- ② 2000 年 7 月に今帰仁村地先海域で漁獲されたシラヒゲウニの口器 1,161 個を回収し、その中間骨を取り出し、万能投影機を用いて長さを測定した。上記の関係式から推定したシラヒゲウニ漁獲サイズは、殻径 65~90 mm で、そのうち 70~85 mm のウニが 94% を占めていた（図 2）。
- ③ 今帰仁村地先海域では、ウニ漁期前の 5 月には殻径 50mm 以下の 1 歳ウニと 70mm 以上の 2 歳ウニが生息している。1 歳ウニは、漁期終期の 8 月に一部が漁獲サイズの 70mm 以上に達するが、大部分は、ウニ漁が終了した 10 月以降に 70mm に達する（図 3）。したがって、漁獲対象は主に 2 歳ウニであると考えられる。

[成果の活用面・留意点]

適正な漁期や漁獲サイズを検討するためには、今後、成熟に関する情報を収集して、現在の再生産に関する資料をそろえる必要がある。

[具体的データ]

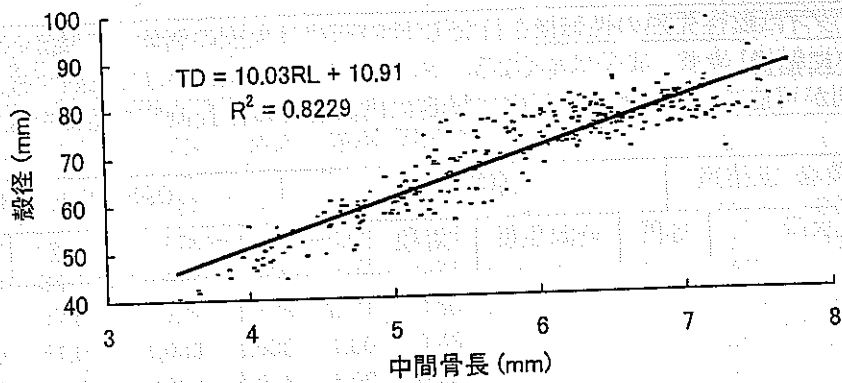


図1 シラヒゲウニの中間骨長と殻径の関係

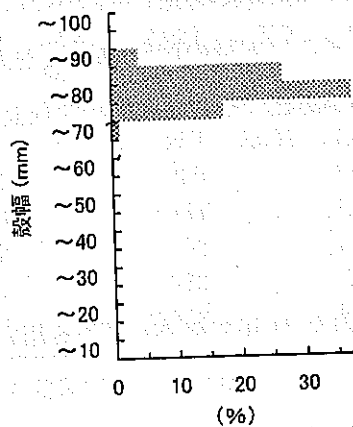


図2 シラヒゲウニの漁獲サイズ

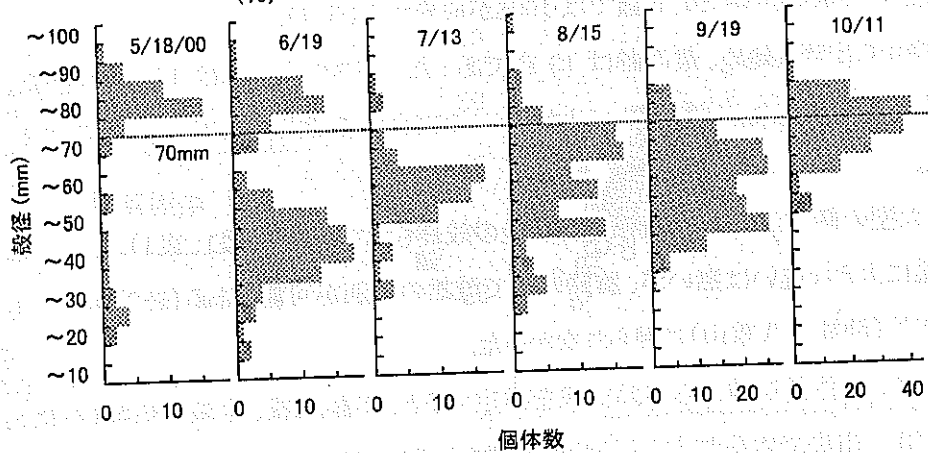


図3 シラヒゲウニの殻径組成の変化

[その他]

研究課題名：放流技術開発事業、放流基礎調査事業

予算区分：国庫補助

研究期間：平成13年（平成10～11年）

研究担当者：渡辺利明・渡邊環

発表論文等：平成12年度資源増大開発事業報告書地先型定着性種（暖水域）グループ